

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105743
法人名	有限会社 媛のくに
事業所名	グループホーム 媛のくに
所在地	愛媛県松山市枝松3丁目1-23
自己評価作成日	平成27年10月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年11月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

* ホームの理念に掲げているように、ご利用者、スタッフ共笑顔で過ごし、明るく笑い声の絶えないホームを目指しています。
 * 個々の思いに耳を傾け「こんな事したい」「こんな所に行きたい」という希望を可能な限りかなえる事が出来るよう努めています。
 * 近隣のスーパー、食べ物屋さんなどに出掛ける事で、出来るだけ地域に溶け込めるよう、また生活の幅が広がるよう支援しています。

近所の方は、庭の草刈りや野菜作りのアドバイスをしてくれる。事業所前でタクシーを待つ方もあり、事業所が設置しているベンチを使ってもらえるよう声をかけている。事業所行事でドウ狩りに出かけた際に、普段から交流のある地域の方と、その奥様も誘って一緒に出かけたことがある。介護が必要な奥様で、ご主人と一緒に外出できたことを喜ばれたようだ。又、地域の方から「自宅で家族が使っている車いすのたたみ方がわからないので教えて欲しい」と電話があり、管理者が出向いて説明したこともある。地域の運動会では、利用者用のテントや席を準備してくれており、利用者は玉入れやピン倒し等の競技に参加して地域の方と楽しんだ。
 介護計画の内容は、利用者の楽しみを支援できる内容・ADLについては、足りない所、できない所をサポートする内容を採り上げている。介護計画と別に食事や排泄等の項目を設けて「支援する事」を具体的に示した表を作っており、職員間で共有してケアに取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム 媛のくに

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 出口 綾子

評価完了日 平成27年10月26日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 入り口に掲示したり、日誌にも印刷する事で、いつも目に触れ、常に理念を意識し、共有できるようにしている。また、ミーティング時等、笑顔の大切さを伝えている。 (外部評価) 「笑顔や笑い声の絶えない居心地の良い家庭的な雰囲気作りをします」「地域の中でその人らしく当たり前の生活が送れるようお手伝いします」という理念を掲げている。管理者は、いつも笑顔でいることを一番大切にしたいと考えており、毎月のミーティング時には、笑顔で対応することの大切さを話している。又、管理者が職員の様子をみて接遇研修の受講をすすめるようなこともある。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 散歩時に挨拶したり、地域の方に運営推進会議に参加していただいたりしている。また、地域の行事に参加させていただいたり、野菜などいただく事もある。 (外部評価) 近所の方は、庭の草刈りや野菜作りのアドバイスをしてくれる。事業所前でタクシーを待つ方もあり、事業所が設置しているベンチを使ってもらえるよう声をかけている。事業所行事でブドウ狩りに出かけた際に、普段から交流のある地域の方と、その奥様も誘って一緒に出かけたことがある。介護が必要な奥様で、ご主人と一緒に外出できたことを喜ばれたようだ。又、地域の方から「自宅で家族が使っている車いすのたたみ方がわからないので教えて欲しい」と電話があり、管理者が向ういて説明したこともある。地域の運動会では、利用者用のテントや席を準備してくれており、利用者は玉入れやピン倒し等の競技に参加して地域の方と楽しんだ。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議の際に活動報告したり、地域の行事に参加した時等、ご利用者と職員との関わりを見ていただいている。また、質問、相談を受け付ける体制は整えてある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 概ね2ヶ月に一回開催し、ホームの活動報告、外部評価の結 果報告等したり、同地区の他のグループホームとも行き来 し、情報交換行っている。</p> <p>(外部評価) 会議には、町内会長、近くのグループホーム職員等も参加し ている。毎回、一組のご家族が参加している。</p>	<p>会議に参加するご家族が固定していることもあり、管理者は今 後、他ご家族にも気軽に会議に参加してもらいたいと考えて いる。会議の意義や目的を分かりやすく伝えて、事業所の サービス向上に向けた会議の取り組みに協力をお願いして みてはどうだろうか。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加していただいた際、事業所の状況を報告 したり、取り組みについて伝えている。また市主催の事業者 連絡会に必ず参加したり、運営上の疑問、問題等あればその 都度質問、相談している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、地域の方から地域包括支援センターの役割 について質問があり、説明をしてもらったことがある。セン ターには、利用状況を報告しており、利用者の紹介等もあ る。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準にお ける禁止の対象となる具体的な行為」を正 しく理解しており、玄関の施錠を含めて身 体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ミーティングや日々の申し送り等で具体的な行為を振り返 り、確認している。職員間で声掛け合い連携を図って夜間以 外は施錠しないよう徹底している。</p> <p>(外部評価) 年1回、身体拘束について研修を実施している。研修時 には、事前に不適切なケア事例についての資料を配布して、職 員個々に日頃の言動を振り返っている。研修後は感想文を提 出している。2階ユニット出入口の扉を開けるとすぐの ところに、1階への階段があるため、出入りするとセンサーで 鳥の鳴き声がかかるようになっている。2階ユニット利用者が 一人で出かけて行こうとする時には、職員も一緒に階段を降 りて行き、玄関に飾っている大きなぬいぐるみを撫でて戻 ったり、さらに外に出かけて行くような場合は、近所を一緒に 散歩する等して支援している。夜間のみセンサーマットを使 用するケースがある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待についての外部研修に参加したり、職員全員に資料を配布し、レポートを書いて意識を高めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者が研修会などに参加し理解を深め、必要があれば活用できる体制が出来ている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約前には自宅を訪問したり、ホームを見学していただいたり、関係作りを心がけている。また契約時には、利用料、起こりうるリスク、重度化や看取り、医療連携の実情についての説明を行い、理解、納得を図っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議時に参加して頂いた方に意見や思いを伝えられる機会を設けている。直接お会いできないご家族には、ケアプラン変更時に文書にて意見を求めたり、ご家族面会時に意見、要望等を伺っている。 (外部評価) ご家族に利用者の日々の様子をもっと知ってもらいたいと、4月から毎月、行事の報告や「利用者の写真を付けた資料」を作成して送付している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>月1回の定期的なミーティングを設け、情報の共有、意見や提案を聞く機会を設けている。またそれ以外にも、その都度意見や提案を聞くようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>職員から研修受講の希望があれば、研修について情報提供したり勤務を調整したりしている。法人は費用面についても応援してくれる。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>運営者も頻繁にホームに来ており、職員に声を掛けてくださったり、ご利用者と共に過ごすことにより現場の状況の把握をしている。 健康診断も定期的に(夜勤者年2回、それ以外年1回)行っている。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>管理者が個々の職員の能力に応じた外部研修を勧めたり、施設内研修を行っている。また、現場でその都度指導を行い、職員ひとり一人の資質向上に努めているがまだまだ不十分。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>同地区のグループホーム3ヶ所で相互に運営推進会議等行き来し、交流を深めている。また、グループホーム連絡協議会や、社協が開催する研修会に積極的に参加し、同業者と交流する機会を設け意見交換等しサービスの質の向上を図っている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>事前面談で、これまでの生活歴、環境、不安、要望などをご本人、ご家族様から親身に聞き取り、ホームでの対応方法を事前に話し合い検討し、柔軟に対応できるよう努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前面談時に、ご本人とは別に話を伺う機会を設け、ホームに対する要望、不安等ご家族の思いに耳を傾け、納得いくまで説明、話し合う事で信頼関係が築けるよう努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前面談時によく話し合い、要望や不安等をよく聞き意向を確認している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 季節の行事やしきたりなど、教わったり、手伝って頂いたりしながら生活を共にしている。また、個々の得意な事を把握し活躍できる場面を多くできるように支援している。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族面会時には近況報告したり、居室で一緒にゆっくりと過ごしていただけるようにしている。請求書送付時に写真付きで近況報告の手紙を同封する事もある。また、ご家族も一緒に外出等の支援も行っている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 以前によくお参りに行かれていた神社にお参りに出掛けたりはしているが、積極的なアプローチは行えていないが、ご本人、ご家族の希望があれば支援していきたい。 (外部評価) ご自宅で仏壇に供えたご飯を南天の木のもとに埋めることが習慣だった方があり、事業所でも続けられるように環境作りして支援している。職員は、朝ごはんが炊けると利用者の方に声をかけている。以前住んでいた場所の近くへドライブに出かけた際「この辺は、たらいうどんが有名なんよ」と以前の様子を話してくれたり「道がきれいになっとるね」と感想を話されたようだ。管理者は、今後も個別に「ふるさと訪問」を実施したいと話していた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員はご利用者同士の相性、関係を把握し注意深く見守っている。 食堂での席、外出時の配車等も配慮している。 時として起こるご利用者同士のトラブルもお互いの気持ちを十分配慮し間に入っている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他施設や入院された方には面会に行ったりしている。 また、ご家族には、いつでも相談に応じられる事を伝えている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人、ご家族の思い、希望を伺うなどし情報を集め把握に努めている。 確認困難なご利用者は、日頃の言動、表情、生活歴などから思いをくみ取るよう努め、検討している。	職員個々に利用者の思いや意向を把握しているが、介護計画に採り入れていくためにも、情報共有する仕組みを作ってはどうか。
			(外部評価) 重度化によりご自分の意思や気持ちを言葉で表現し難い方には、表情を見て職員が想像をして思いを汲み取るようにしている。職員間で、「こうしたら反応があった」等と介助方法について情報交換をすることもある。管理者は、職員に対して「会話が難しい方にも、しっかりと話しかけ、気持ちを汲み取る工夫をするように」と話している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前にご本人、ご家族に聞き取りを行ったり、生活歴等を記入する用紙をお渡しし、記入していただく事により生活歴等の把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、日々の支援の中での変化、気づき等職員間で共有し、支援内容の検討をその都度行うよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人、ご家族の意向、要望を伺い職員全員でカンファレンスを行いケアプランを作成している。毎月各担当者が他の職員の意見なども聞きモニタリング行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>モニタリングは、担当職員が中心となり、毎月行っており、6ヶ月ごとの見直しにつなげている。介護計画の内容は、利用者の楽しみを支援できる内容・ADLについては、足りない所、できない所をサポートする内容を採り上げている。介護計画と別に食事や排泄等の項目を設けて「支援する事」を具体的に示した表を作っており、職員間で共有してケアに取り組んでいる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご利用者の変化等、個別の経過記録に記入し情報の共有をしている。特に注目してほしい記録にはマーカーを記している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人、ご家族の意向を配慮し、できる限りの支援を柔軟に行うよう努めている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議に地域の方に参加していただく事により、地域で行われる行事の日時、公民館活動などの情報を得る事ができ、参加させていただいている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居時ご本人、ご家族と相談しかかりつけ医を決めている。 提携病院の週1回の医師の往診と、看護師の訪問で日常の健 康管理、異状の早期発見に努めている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>提携病院が24時間体制で対応してくれる。利用者の普段の様 子で気になることや相談は、提携病院の訪問看護師に主に相 談をし、必要時に医師につないでくれる。入居前から通院し ている病院をご家族の付き添いで受診する方もある。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>提携病院の看護師が週1回訪問していただき、日頃の 健康管理、医療面での相談、助言、対応を行って もらっている。</p>	
			<p>(外部評価)</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院時にはご本人の情報を提供している。また職員が 頻繁に面会に行く事により病院での状況を把握し速や かな退院支援に結びつけている。</p>	
			<p>(外部評価)</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居時に看取り体制、当ホームの方針等説明させていただ いている。 またご本人の状態の変化に伴い変化していくであろうご家族 の思いに添えるよう柔軟な対応をしていき、納得できる最期 となるよう話し合い行っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>看取りの希望については、入居時と看取りが必要な状況になった際 に確認している。医師は往診時等に「看取りは怖くない。焦らな くても大丈夫。ご家族にも説明しているし、何も慌てることはない ですよ」と職員に話してくれる。看取りを経験している職員も増え、 緊急時の対応や看取りまでの支援についても、慌てたり焦ったりす ることが少なくなっている。1月に看取りを支援した際、職員は できるだけ訪室して声かけして支援した。又、付き添いのご家族のた めに、居室に置き畳を用意した。終末期を過ごす利用者がいる場合 は、心身の状況変化等を示した資料を作り、カンファレンス時に職 員間で共有する等、取り組みに工夫している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 全職員が対応できるよう、年2回消防署員指導による応急手当、蘇生法訓練を実施している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回ご利用者と共に火災避難訓練を行い、近隣の方にも訓練に参加していただいている。 火災以外の災害については、具体的な訓練は行えていない。 防災マニュアルも十分なものではない。 (外部評価) 10月には消防署の立会いの下、利用者参加で夜間想定避難訓練を実施した。水消火器を使用して消火活動も体験した。消防署から「普段からコンセントの埃を取るように」「放火が多いエリアなので、人目に付かない所に燃えやすい物を置かないように」とアドバイスがあった。ミキサー食のため、ゼリー状の飲料等も備蓄しておきたいと話していた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) まだまだご利用者への配慮に欠ける声掛け等見受けられる為、その都度職員同士で注意し合ったり話し合いを行っている。 (外部評価) 利用者個々の起床時間に合わせて朝食を準備している。職員は、ソファで過ごす利用者には、昼食ができたことを伝えて誘ったが断っていた。職員は、他利用者の介助等しながら時をみて、何度か声をかけていた。職員の声の大きさや、指示的な口調、名前の呼び方等、日々の中では配慮が必要と感じるような場面もあるようで、管理者がその時々で注意している。	さらに、職員は、利用者を尊重した対応や言葉かけ、呼び方等ができているか、時には自分自身を点検したり職員同士で気付きを話し合うような機会を作ってみてはどうだろうか。さらなるレベルアップに取り組み、事業所のサービスの質向上につなげてほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ご利用者が決めやすい(答えやすい)問いかけを心掛けている。ご自分の思いをストレートに表出できる方が少なくなったが、表情等の反応を汲み取るよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペース、リズム等考慮し、その日の状況、気分で変化する気持ちを尊重し支援しようと努めているが全て出来ているとはいえない。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 頭髪、衣服の乱れ等気につけ、さりげなく直して差し上げている。また、行事の際はお化粧品したりおしゃれを楽しんでいただいている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) もやしの根切、ジャガイモの皮むき等、出来る方にはしていただいている。料理の得意なご利用者には味付け、味見等調理全般手伝っていただいている。また、ホールでは気が散って食事に集中できない方は、居室で食事を摂っていただいている。	
			(外部評価) 調査訪問日の昼食時、職員は、利用者と一緒に同じ食事を食べながら味付けの話をしたり介助等をしていた。ミキサー食で食事する利用者には「お寿司ですよ」「お汁ですよ」とメニューを伝えてから介助をしていた。クリスマスはオードブル形式、お正月にはお重に詰めて見た目も楽しめるよう工夫している。利用者の好き嫌いを把握し、カレーが苦手な方には、同じ食材で肉じゃがを作ったり、魚は皮を取れば食べることができる等、個々に対応している。昼食後は、コーヒーを入れてゆっくり過ごせるように工夫していた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分摂取量を記録し把握行っている。おじやにしたりし、ミキサーにかけたりしその日の状態に合わせて提供し召し上がっていただいている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後ご利用者に合わせて歯磨き支援行っている。また、洗口液、口腔ケア用ウエットティッシュ等使用し口腔内の清潔保持に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、時間誘導を行っている。立位困難なご利用者も日中は2人介助にてトイレ誘導行なっている。おむつから紙パンツ、紙パンツから布パンツと入居後状況に応じ変更している。 (外部評価) 入居時、失禁が目立つ方があったが、職員から「トイレの場所が分からないのではないか」と意見があり、居室で過ごす時にもトイレで排泄ができるよう、居室の内扉に案内用ビニールテープで「トイレ」と表示した。利用者が居室の扉を開けて出て来られた時に、職員がトイレに案内して排泄できるよう支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表と水分チェック表を1枚の用紙にし、水分補給の徹底を意識している。食事面でも食物繊維の多い食材等を意識している。又、毎朝、朝食時にバナナジュース(バナナ、酢、牛乳)を飲んでいただいている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴を拒まれる方は無理強いせず翌日に変更したり、ちがう職員が声掛け行ったりチームプレイで行っている。時間等ご利用者の希望に添ったものではないが、入浴中は1対1のコミュニケーションの時間とし歌を唄ったり、楽しい時間になるよう努めている。 特に希望される方がいない為、夜間入浴は行っていない。 (外部評価) 週2回以上入浴できるよう支援している。2階ユニットには家庭用の浴槽があり、一人で入る方が使用しており、ゆっくり入浴できるよう支援している。1階ユニットには、家庭用と機械浴を整備しており、重度の利用者も安全にしっかりと温まることができるよう支援している。柚子湯を楽しむこともある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ご利用者個々のペースで居室やフロアソファ等で休息をとっていただいている。 また、夜間不眠になりやすい方には日中の活動性が上がるよう支援し安眠に繋がるようにに支援したい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方や用量が変更されたら、日誌、連絡ノートに記載し全員把握している。下剤などは状態を診て、Drと相談しその都度細やかに調整している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 好きな音楽を聴いて頂いたり、季節を肌で感じて頂けるよう、季節の行事、外出支援をし気分転換を図っている。また、家事の得意なご利用者には、積極的に調理等に参加していただき、感謝の気持ちを伝えている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご本人の体調や気分に合わせて、出来る限り外出の機会は増やしていきたいと考え実行している。	
			(外部評価) お天気の良い日は、周辺を散歩したり、コンビニでジュースを買って近くの公園で過ごすようなこともある。テレビをみて「へ行きたい」と言われることもあり、職員は利用者の普段の会話から、希望を汲み取るように心がけている。重度の方の外出の機会が減っていることもあり、重度の方も出かけて楽しめるような機会作りの一つとして、近日中に近所の公民館を借りて「ふれあいコンサート」を開催する予定がある。ご家族がフラダンスを披露してくれたり、職員がサックス演奏をする。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お財布はホームで管理させていただいているが、希望や能力に応じ柔軟に対応していきたい。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時には支援しているが、頻度は少ない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>フロアの窓からは田んぼが見え、田植えや稲刈りなど季節を感じることができる。また、調理の音や匂いを感じることで生活感も感じることができ、調理しながら会話をするなど交流しやすい環境にある。</p> <p>(外部評価)</p> <p>調査訪問時、利用者同士でオセロをしたり、ソファでおしゃべりする様子が見られた。テーブルの上には、利用者が活けた菊の花が飾られていた。隣人にももらった柿で、庭にテントを張って吊るし柿を作っていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>相性等考慮し、テーブルの位置、席を決めている。ソファで気の合うご利用者同士で歌を唄ったりおしゃべりされたりしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居心地良くすごして頂くために、寝具やタンス、椅子など使い慣れたものの持込をお願いしている。入居後もご本人の希望や状態に添ったものを揃え、居心地良く安全に過ごして頂けるよう支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族が毛糸を準備してくれて、部屋で花瓶の敷物を編んでいる方がいる。ベッドは備え付けで、配置については、ご本人の希望や日当たり、エアコンの位置等を踏まえてそれぞれに決めている。ご家族の一人の方が利用者それぞれに、顔写真入りカレンダーを作ってくれており、個々の居室に貼っていた。仲良しの利用者同士と一緒にテレビを見て過ごすような時もある。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>廊下、階段には手すりが設置し車椅子が離合できる幅もあり、安全に配慮している。また、状況に合わせた環境整備に努めている。テーブルの配置など変更した場合は、混乱を招かないよう気を配っている。</p>	